

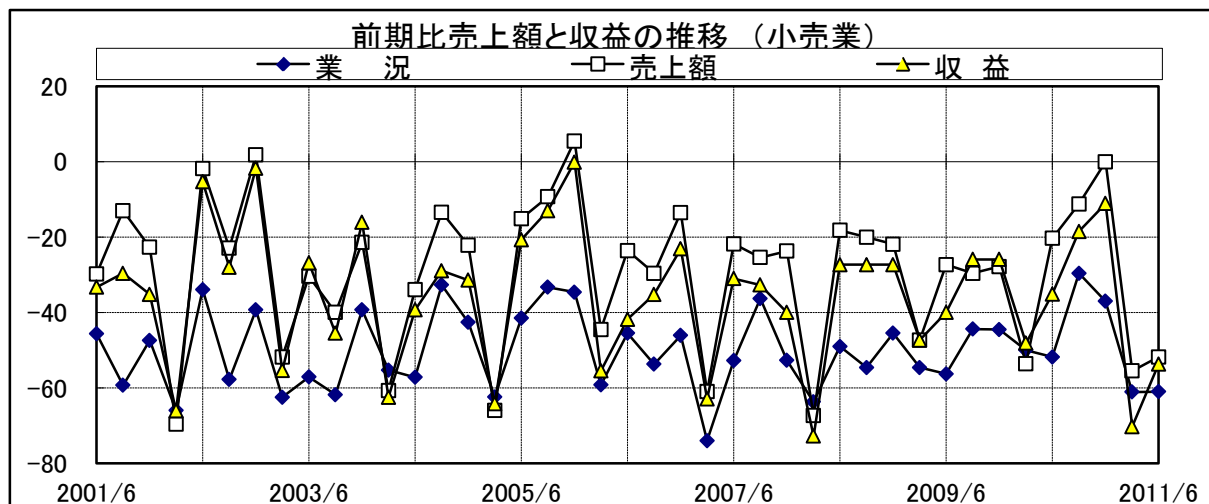
小 売 業 54 企 業 (回 答 率 100.0%) の 調 査 結 果 で す

□ 景 況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業 況	-37.0	-61.1	-61.0	-59.2
売上額	0.0	-55.5	-51.8	-40.7
収益	-11.1	-70.3	-53.7	-46.3

今期の業況判断DI値は△61.0と、前期(△61.1)比ほぼ横ばいの値となった。地区別にみると、三石、様似地区が改善し、浦河、静内、えりも、広尾地区で悪化している。

売上額、収益判断DI値は、売上額が△51.8、収益が△53.7と、前期比それぞれマイナス値が縮小し、3.7、16.6ポイント上昇した。

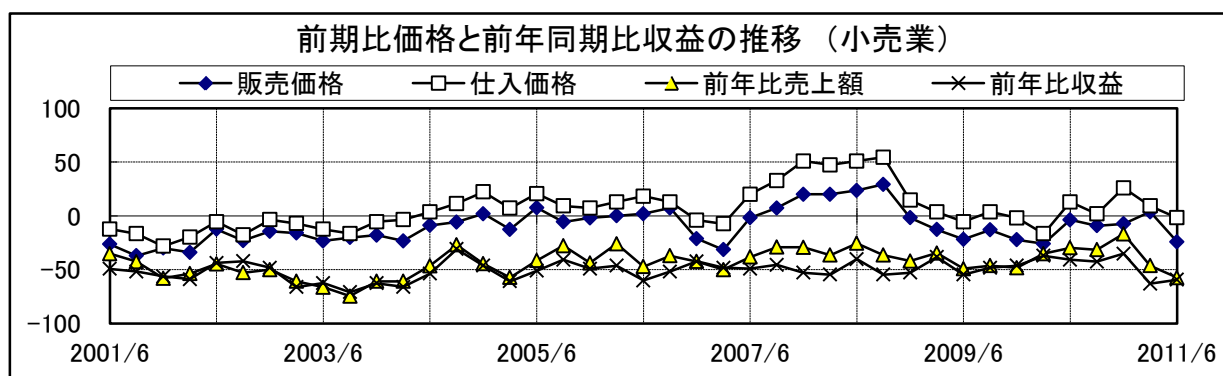


□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
販売価格	-7.4	3.8	-24.1	-22.2
仕入価格	26.0	9.3	-1.8	-9.2

販売価格判断DI値(△24.1)は、前期比プラス値からマイナス値に転じ、27.9ポイント下降、価格低下基調となっている。仕入価格判断DI値(△1.8)も、前期比プラス値からマイナス値に転じ11.1ポイント下降、価格低下基調となっている。業種別に

見ると、仕入価格は衣料品、家電品で低下基調を強めている。販売価格では家電品が低下基調、衣料品は低下基調が強まっている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	-1.9	-16.7	-12.9	-11.2
人手状況	-3.6	7.4	-7.5	-7.4

残業時間判断DI値は△12.9と、残業時間が減少したとする企業割合が減り、前期比3.8ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は△7.5と、前期比プラス値からマイナスに転じ、人手「不足」超となっている

□ 設備投資の動き

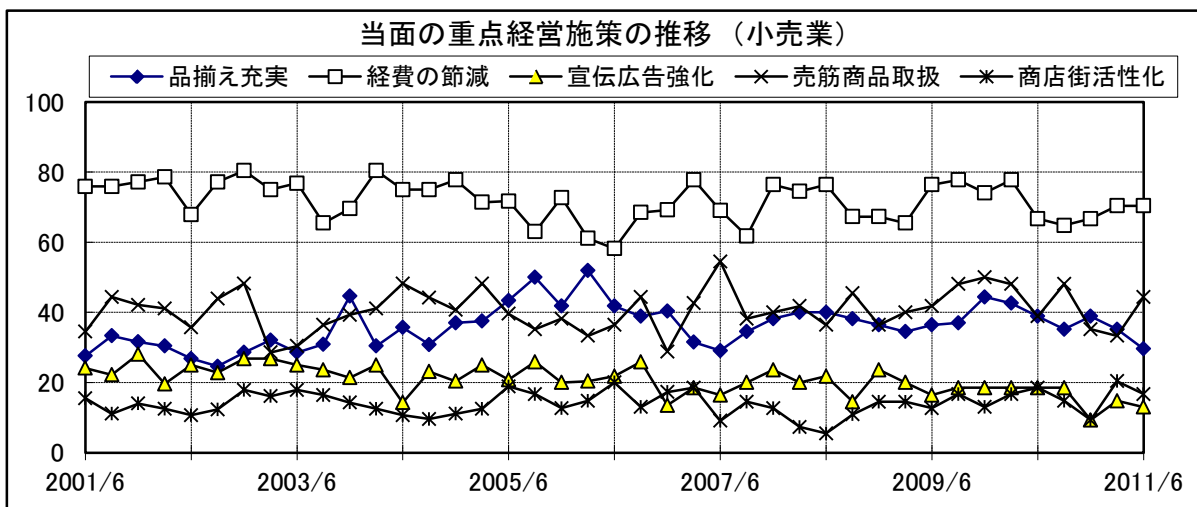
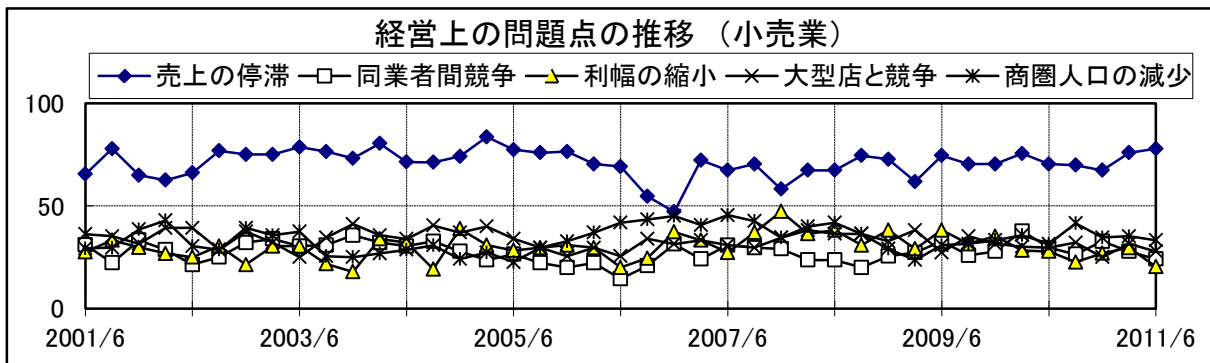
設備投資の充足感を示すD I値は $\Delta 7.5$ と、前期($\Delta 16.6$)からマイナス値が縮小し9.1ポイント上昇、不足感を弱める一方、適正と回答した企業は85.1%と、前期(79.6%)から5.5ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は11.1%と、前期(9.3%)比1.8ポイント上昇、件数で前期の5社に対し6社の実施となった。来期予定は当期比1社減の5社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ77.8%、次いで「商圈人口の減少」33.3%、「大型店との競争」27.8%、「同業社との競争」「商店街集客力低下」24.1%の順が続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ70.4%、次いで「売れ筋商品取扱」44.4%、「品揃えの充実」29.6%、「教育訓練を強化」「商店街の活性化」16.7%、「宣伝広告の強化」13.0%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期(平成23年7~9月期)の予想業況判断D I値は $\Delta 59.2$ と、今期($\Delta 61.0$)実績比1.8ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I値は、売上額が $\Delta 40.7$ (今期 $\Delta 51.8$)、収益が $\Delta 46.3$ (今期 $\Delta 53.7$)と、今期実績比それぞれマイナス値が縮小し11.1、7.4ポイント上昇見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D I値は、販売価格が $\Delta 22.2$ (今期 $\Delta 24.1$)と、今期実績比マイナス値が縮小し1.9ポイント上昇、低下基調を弱める見通し。一方、仕入価格は $\Delta 9.2$ (今期 $\Delta 1.8$)と、マイナス値が7.4ポイント拡大し、低下基調を強める見通しとなっている。

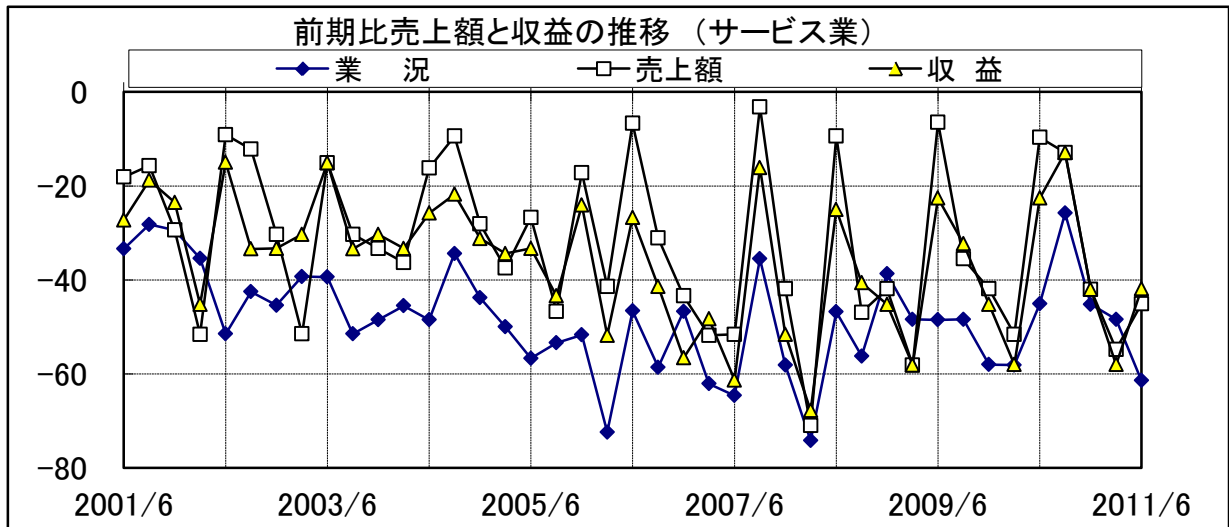
サービス業 31 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
業 況	-45.2	-48.4	-61.4	-64.6
売上額	-42.0	-54.8	-45.1	-45.1
収 益	-42.0	-58.0	-41.9	-54.8

今期の業況判断DI値は△61.4と、前期比マイナス値が拡大し13.0ポイントの悪化となった。地区別にみると、えりも地区が改善し、様似地区で横ばい、浦河、静内、三石、広尾地区で悪化している。

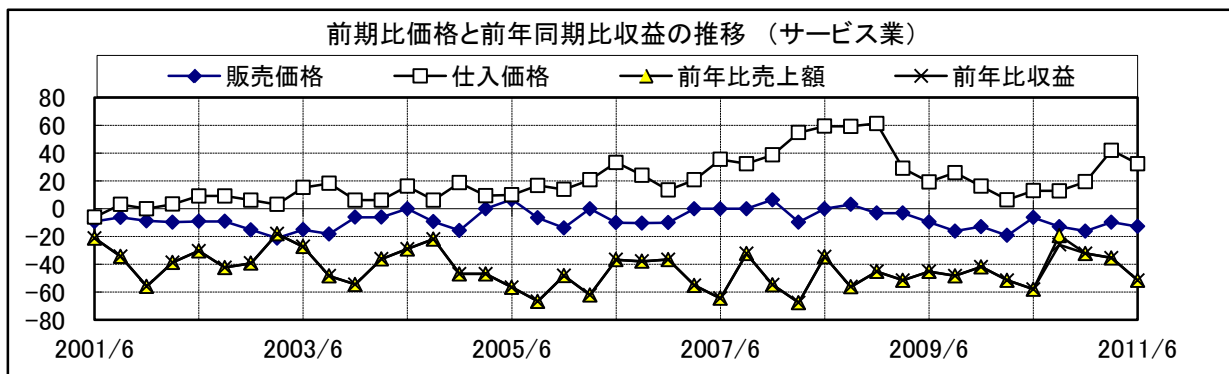
売上額、収益判断DI値は、売上額が△45.1、収益が△41.9と、前期比それぞれマイナス値が縮小し9.7、16.1ポイント上昇した。



□ 価格面の動きと前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
料金価格	-16.2	-9.7	-12.8	-16.1
材料価格	19.4	42.0	32.3	29.0

料金価格判断DI値(△12.8)は、前期比マイナス値が拡大し3.1ポイント下降、価格低下基調を強めている。材料価格判断DI値(32.3)は、前期比プラス値が縮小し9.7ポイント下降、価格上昇基調を弱めている。業種別にみると、料金価格で旅館が低下基調を弱め、自動車整備、美容は低下基調を強めている。材料価格では、いずれの業種も上昇基調を弱めている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
残業時間	-16.1	-16.2	-16.2	-25.8
人手状況	3.2	3.2	-6.4	3.2

残業時間判断DI値は△16.2と、残業時間が減少したとする企業割合は前期比同値であった。

人手過不足判断DI値は△6.4と、前期比プラスからマイナス値に転じ9.6ポイント下降、人手「不足」超となった。

□ 設備投資の動き

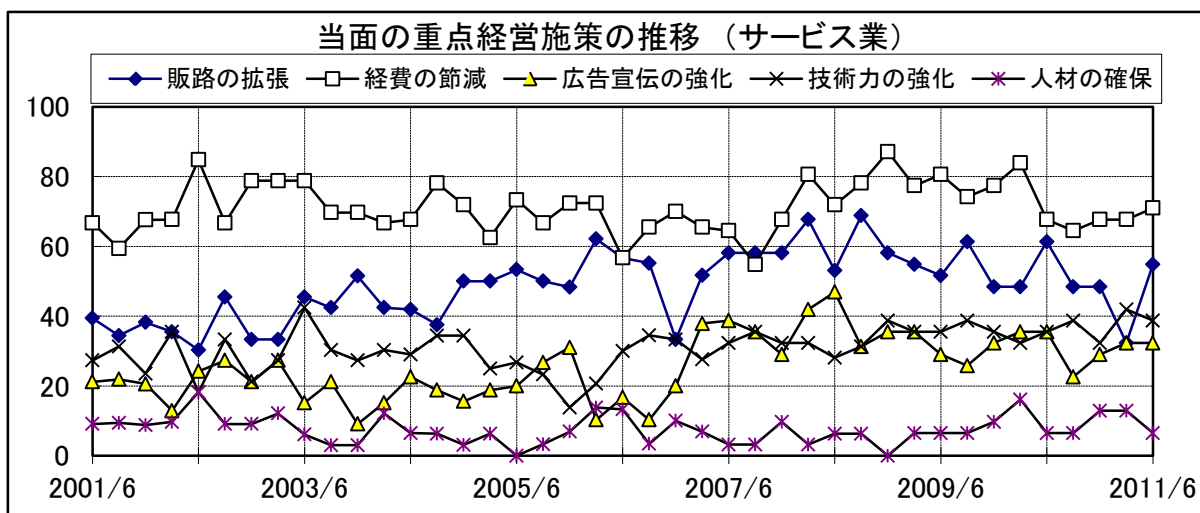
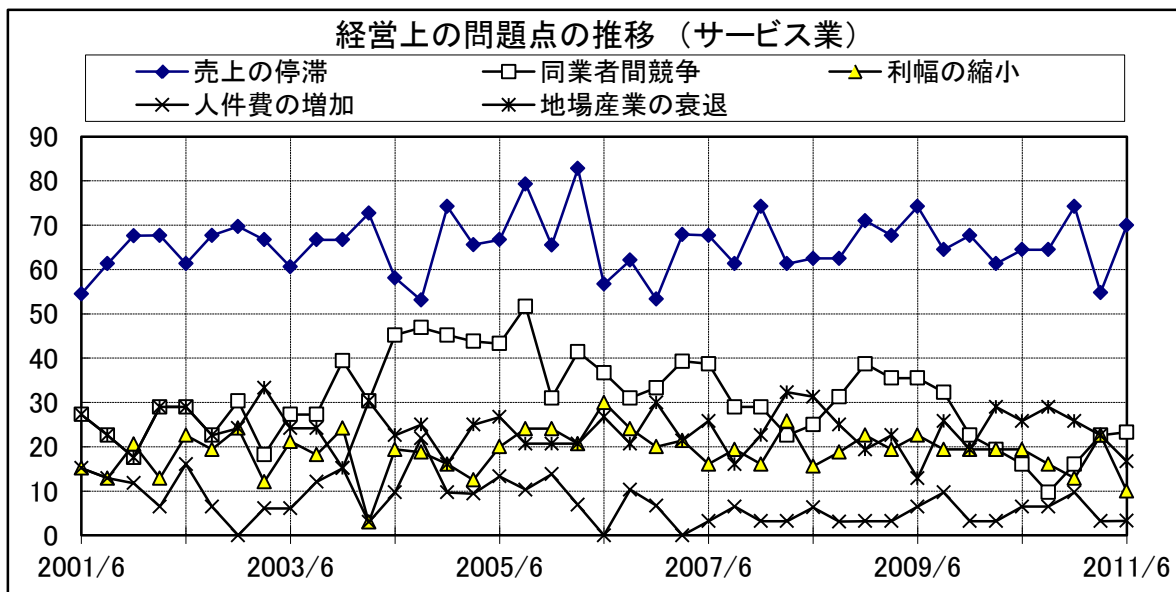
設備投資の充足感を示すD I 値は△12.9 と、前期 (△16.2) からマイナス値が縮小し 3.3 ポイント上昇、不足感を弱める一方、適正と回答した企業は 67.7%と、前期 (71.0%) から 3.3 ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は 12.9%と、前期 (16.1%) 比 3.2 ポイント下降、件数で前期の 5 社に対し 4 社の実施となった。来期予定は当期比 1 社減の 3 社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」70.0%をトップに挙げ、次いで「商圏人口の減少」50.0%、「取引先の減少」26.7%、「材料価格の上昇」26.7%の順に続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」71.0%をトップに挙げ、次いで「販路を広げる」54.8%、「技術力を強化する」38.7%、「宣伝広告の強化」32.3%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期 (平成 23 年 7~9 月期) の予想業況判断D I 値は△64.6 と、今期 (△45.1) 実績比 19.5 ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I 値は、売上額が△45.1 と今期実績比同値の見通し。収益は△54.8(今期△41.9)と、今期実績比 12.9 ポイントの悪化見通しとなっている。

予想料金、予想材料価格判断D I 値は、料金価格が△16.1(今期△12.8)と、今期実績比マイナス値が拡大し 3.3 ポイント低下、価格低下基調が強まる見通し。一方、材料価格は 29.0(今期 32.3)と、今期実績比 3.3 ポイント低下、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。